

はな 華



特別養護老人ホーム 清華苑 広報紙

2024年1月15日 第74号
発行：社会福祉法人 三幸福祉会
発行人：総施設長 池田昌弘
編集：SEIKAEN Design Lab
〒674-0051 明石市大久保町大塩 3104番1
TEL 078-934-0800 FAX 078-934-0830 <https://seikaen.jp>



12月2日は祖母の82歳の誕生日でした。祖母はとても元気で身の回りの事は全て自分で行うような人です。そんな祖母は半年ほど前に入院中に脳梗塞を発症、右半身麻痺になりました。

入院中はコロナ禍で、面会は出来ず電話で話すのみでしたが、その時は、いつもの元気な声でお話は出来ていました。

3ヶ月のリハビリ終了後、退院した祖母に会いに行くと、私の顔をみた瞬間に涙を流していました。「情けない体になってしまった。」と涙を流しながら弱音を吐いていた祖母を私は初めて見ました。私は、ただ祖母の話を聴きながら聞く事しか出来ませんでした。

その後すぐにいつもの元気な祖母には戻りましたが、祖母の涙はもうなっています。ここに入所されているご利用者も同じ思いをしている方は沢山おられると思います。自分の家族と同じ経験をしているからこそ寄り添えることがあると思うのでこれからも利用者の笑顔を増やせるように頑張っていきたいと思っています。

（介護員 明松葵）

（介護支援専門員 前川真弓）

今日は最近ご利用者に言われて嬉しかったことについて話したいと思います。目が合うと「あなたの目は綺麗ね」と声を掛けてくれ気に掛けてくれるご利用者がいます。

ある夜勤でふと、「あなたはこの仕事好きでやつてるの?ほんとにいつも頑張ってるね。」と声を掛けて下さいました。仕事をする上で悩んだりすることもありますが、頑張っているとしっかり見ててくれている人もいるんだなと思いました。また自分がやりたかった仕事好きな事を仕事で働き続けることは幸せなことだと思いました。「利用者のその一言に元気つけられ、明日からもまた頑張ろうと思います。自分も周りのご利用者や職員を元気づけられる職員になれるように頑張りたいと思います。

（介護員 戸越理乃）



ゼロベース思考という言葉を聞いたことがあります。例えば本を読んでいない方もおられると思います。例え本を読んでいない何気なくやっていることをもし、やっていいことなどしたら…それでもやりたいことなのか。

この人と付き合ってなかつたとしたら、それでも付き合いたい人が。と聞いかけてみます。せっかく、買ったんだからつまらなくてこの本を最後まで読もうという思考は、お金は損しなくて大げさに言つて命を無駄にしていることになるかもしれません。時間の中に命があるからです。これはつまらないと思ったらお金をかけたものでもそこでやめる決断をするのも大切です。皆さんも心当たりがあることがあれば一度ゼロベース思考で考えてみてはいかがでしょうか。

（調理員 藤本藍）

編集後記



新年あけましておめでとうございます。ご利用者ご家族、地域の皆さまからの温かいご支援とご理解、ご協力を賜り、無事に新春を迎えることができましたことを心より御礼申し上げます。今回はクリスマス会やお屠蘇祝いの素敵な瞬間をお届けするとともに、職員の想いが沢山詰まった内容となっています。本年も宜しくお願ひいたします。

（生活相談員 原田七海）



（生活相談員 原田七海）

最近食中毒のニュースを見ていると「チャーハン症候群」という言葉が取り上げられていました。いったい何のことかと調べてみると、スタバやチヤハンなど調理済みの料理を常温で長時間放置した事による「セレウス菌」が原因の食中毒をさせた表現でした。20歳の男性が常温で放置してしまった5日前のパスタを食べて死亡した例があるそうです。

その男性は食べる前に電子レンジで温め直していましたが、下痢や吐き気を起こし翌朝亡くなっていました。死にするケースは稀みたいですが、セレウス菌は電子レンジや鍋での再加熱では死なないことが多いという事です。感染を防ぐためには、調理した食品は速やかに冷蔵保存し、常温で長時間放置しない事が大切です。調理室でも常に食品の取り扱いには気を付けていますが改めて注意していきたいと思いました。

（調理員 藤本藍）



オオクワガタの魅力にひきこまれて

施設長 岩西太一

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年も皆さまのお役に立てるようになっ層の努力をもってご厚情にお応えして参ります。

元日より能登半島地震、2日には飛行機衝突事故など多くの犠牲者が出ており心を痛めている方も多いかと思います。被害に遭われた方にお見舞い申し上げるとともに、1日も早い復興を願っております。当法人におきましても自然災害発生時のBCP策定をしておりますが、今一度、不備がないかを確認してまいります。

話はガラリと変わりますが、昨年のお盆過ぎに4歳の息子とホームセンターで買い物をしていました、ボンと1つベット「ローナー」の片隅に虫かこが置かれおり【オオクワガタ最終価格】のポップを見つけました。秋の訪れ目前に商品の入れ替え時期でたたき売り状態の虫かこがあり、ケースは真ん中で仕切られておりオスとメスのペアでの販売でした。餌のゼリーを食べきり空っぽの状態で、どこか可哀想だなと感じつつも、目的の商品を探しに店内を歩いていると、興味を持つと親などそっちのけで、よく迷子になる息子の姿があります。でも直ぐに察しに付きました。やはり先程の虫かこを手に取り、オオクワガタをじっと見ています。「お父さん、名前を付けた」とオスは「ビビ」メスは「ピッピ」と、ややこしくはないか

と思いましたが、私は（タイチ）も息子に（イチタ）と名付けた身としては偉そうなことは言えないなど、「生き物を飼うのは責任がいるよ」「出来るよ」「毎日、餌を交換しないといけないよ」「出来るよ」「マット（土）交換はしないといけないよ」「出来るよ」「お母さん虫嫌いや」「お父さんが買ったことにして」というやり取りの結果、購入し持ち帰りました。

息子はとても喜びお世話を頑張っていましたが、大事にするあまり常に見えるところに置いておかないと納得せず、一飯もお風呂もすつと一緒に寝るときまで枕元に、保育所にも持つていくんだと言いく出しました。

オオクワガタは、日中は大人しくほとんどを土の中で過ごし夜になるとソノソノと土から出てきて餌を食べる姿を見ていると、漆黒に光る分厚い体から延びる角。中にはが一対、先端に小さなとげが一対あり、さらに太く内側に曲がった大あこを持ち合わせており、その威風堂々たる姿に私の方が日々に魅了されていきました。

ギラファノコギリクワガタなど、..

現在、我が家には各種クワガタ成虫7ペア14匹、来夏に成虫になるオオクワガタの幼虫53匹を飼育しています。息子の行動に呆れていますが、今は逆に妻と息子からは「呆れる」通り越し、「引かれて」しまっている今日この頃です。今までゴルフや筋トレなど熱中すると止まらない性分でしたが今年こそ改善したいと思います。

皆さんの中で、お子様やお孫様など昆虫に興味があり、責任を持って飼育して頂ける方は是非、お声掛けください。お譲りいたします。

最後になりましたが、皆さまのご健康ご多幸を心より祈念しております。



介護部だより

介護主任 長田和真



介護主任 長田和真

新天地で新たな夢を奏でる

約16年務めた老人保健施設 清華苑養力センターを後に、令和5年1月1日より特別養護老人ホーム 清華苑の介護主任として着任しました。

長年勤める事で見える景色もあれば、新天地で見える新しい景色もあります。どちらが良いという話ではありません。でも直ぐに察しに付きました。やはり先程の虫かこを手に取り、オオクワガタをじっと見ています。「お父さん、名前を付けた」とオスは「ビビ」メスは「ピッピ」と、ややこしくはないか

ではないか・・・。そんな不安もありましたが、周りの職員の温かい支えもあり、新人の頃に感じた新鮮な気持ちを思い出しながら、あつという間に2か月が過ぎようとしています。

今は不安な気持ちよりも「今の自分に出来る事はなにか?」と日々自問自答する事で、想像が描き立てられ、ワクワクする気持ちの方が大きくなっています。特養・老健ではそもそも与えられた役割が大きく異なります。施設として与えられた役割という概念だけに捕らわれるのではなく、互いに築き上げるものの大目にしつつ、互いに培ったノウハウを新

たな地で活かしあう事で両施設にとって相乗効果となるよう働きかけていく事が私の務めだと感じています。

これからは、特養の介護主任として、特養のみならず、法人内の事業所間の繋がりや連携を深め、相互に働きかけが出来るような流動的な動きを介護部門で確立していくことを考えてています。

ご利用者・働く職員・地域の方々にとってより良い環境を整えられるよう精進して参ります。今後ともよろしくお願ひいたします。



能面の秘密

みなさんは「能面」と聞いて、どんな印象を抱くでしょうか。無表情と感じている方多いかもしません。

そもそも「能面」は能楽で使用される仮面です。能楽は600年以上演じ受け継がれてきた日本の伝統文化の一つで、明石市でも毎年10月頃に屋根付きの本格的な能舞台を明石公園に設置して『明石薪能』を演じています。

さて、「能面」に話を戻しますと、実は「能面」は、左右非対称になつており、ほんの少し角度を変えてうつむくと悲しみ、上を向くと喜んで見えるようにならっているそうです。これを「中間表情」といい、物語の中で変化していく主人公の心情を一種類の面で表現するための工夫だそうです。

日常生活において、私たちは表情の変化で多くを語りますが、中にはうまく表情で表現できない人もいると思います。そんな方と出会ったときは、こちらがほんの少し角度を変えて関わることで、今まで気付かなかつた表情に出会えるのではないか。

(統括部長 田村智之)



辰を作るはずが・

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

去年この紙面上で毎年干支の置物を作っていることをお話させて頂きました。あれから一年がたち、もうそんな季節になったのかと過ぎゆく月日が早く感じる今日この頃です。

さて今回は「辰」です。難しいですね、なにしろ想像上の生き物なので、リアルすぎて怖いですし、色を間違えると別の生き物になります。今日は前準備を念入りにして挑みました。目標は「かっこよく」です。

まずは大事な顔からそして胴体へと大まかな形を作ります。やっぱり何回作っても難しいですね。かっこよくからほど遠く「カエル」になりました。大爆笑です。だいたい想定内ですが・・・。二回目のチャレンジ、今年は午年でしたか? といふくらいの顔が馬になり、色が緑色を使っていたので、気味の悪い物体になってしましました。予想通り四苦八苦しながら時間だけが過ぎてゆくという例年通り流れとなりました。下手の横好きで作り、今年も堂々と6体目を飾らせて頂いておりますが、温かい目でご覧頂けたら幸いです。

皆様のご意見、ご感想お待ちしております。

(看護主任 大島さおり)





信頼関係という基礎を築く

介護員 山口領太

STATT VOICE

スタッフボイス

特別養護老人ホーム 清華苑
介護、看護、相談、調理、事務、それぞれの部署で
働くスタッフの生の声をご紹介します



介護員 島袋マキ

私は、この春に入職してからたくさんの出会いと別れを経験しました。この短期間でもその数が多いことに驚いています。

この仕事をしてから、「一期一会」という言葉の意味を実感することが多くなりました。「一期一会」とは、「一生に一度だけの機会。生涯に一回しかない」と考えてそのことに専念するという意味ですが、まさに今の私が大切にしていることです。「このことは、一緒に働いている職員や」ということで生活されるご利用者との出会いに加えてここで起こる出来事全てに対し言えることだと思います。

「」ここで、あるご利用者A様のお話をします。A様は、私の名前を早く覚えてくださりよくお話をしてくださいださった方です。

初めての自己紹介からしばらく会わない期間があり、久しぶりに顔を合わせてもすぐに私が誰か分かってくださったことがとても嬉しかつたのを覚えています。

そのとき「覚えてくださったのですか!」と喜びの声が咄嗟に出ました。それからも、A様は「もう慣れたか」と気にかけてくださったり、苦手だった移乗介助も「うまくなつたな。」と褒めてくださったりしました。

入職して3ヶ月程経ち、だんだんと仕事にも慣れっこり、A様は突然体調を崩されてしまい天国へ旅立たれて行かれました。私は、昨日まで元気だったA様の姿しか知らないだったのでとても信じられませんでした。私は、「のことから「今」という時間を大切にしようと思いました。

この仕事をしていると、時間の流れはあっという間に感じます。毎日同じことの繰り返しのように思いますが、全く同じ1日なんて無くそのどれもが大切な時間であることを知りました。大切な時間を共に過ごしているという自覚を持ち、「一生に一度の出会いに感謝の気持ちを忘れずにいきたいです。

つい先日、施設での3年目自フォローアップ研修があり、私が介護員となつてからの今までを振り返る機会がありました。振り返る中で、私が介護員として大切だと改めて感じたことは信頼関係の大切さです。

あるご利用者A様のお話をします。A様は他施設から当施設へ来られた方ですが、入所された当初は、排泄介助や移乗介助時等全ての介助時において、介護員に対し「お前はいらん、○○さんを呼んでくれ」と以前に居た施設の職員を呼ぶでした。A様は他施設からの移動による生活環境の変化の影響で不安が募り、なかなか心を開いてくれませんでした。

介護サービスを提供するためには、介護技術・知識等も必要ですが、介護員がご利用者と良好な人間関係を構築することが大切です。

マーカル通りのコミュニケーションだけではなくスピカリティーの精神で接し、時間をかけて信頼関係を築く事を心掛けました。

そんなA様とは、入所された当初「お前はいらん」と言われていましたが、現在では、排泄介助時や移乗介助時には笑顔で「頼むわ」と話され、様々な面で頼つて下さるようになりました。

信頼関係は崩れやすく、築きにくいものですが、介護員は介護のプロとしてご利用者に安心していただけるよう信頼関係を深め、介護サービスを提供しなければなりません。

これからもご利用者のとの信頼関係を大切に、一人一人のニーズや状況、変化などに応じたケアを行い、相手の立場に立ち、どのような介護員だったら信頼していただけるかを考えながら、一人一人に寄り添ったケアを行っていきたいと思